

鋼材輸送管理システム

「TEPPAN」本格稼働

4社で開発

藤澤鋼板(本社)千葉県浦安市鉄鋼通り、藤澤丈社長)や別府スリッター(本社)千葉県浦安市港、別府竜児社長)など4社が開発した鋼材輸送の配送管理システム「TEPPAN(テッパン)」が本格的な運用を開始した。発注業務の簡素化やトレーサビリティ強化、運送会社側の負担軽減などの面で効果が出ており、今後は台積みや輸送効率向上などのシナジー創出に向け、新規利用企業の拡大を図る。

シナジー創出利用拡大へ

同システムは藤澤鋼板、別府スリッターと運送業の櫻井運輸(本社)東京都江東区、櫻井隆社長)、システム開発のネバーマイル(深作康太代表取締役CEO)

の4社が2022年夏に開発に向けて始動。約一年半をかけて完成させ、今年から藤澤鋼板と別府スリッターで運用を開始した。「両社で利用しながら



別府社長(左前方)、藤澤社長(右前方)、櫻井専務(左後方)、深作CEO(右後方)の4氏

を組む別府社長(左前方)、藤澤社長(右前方)、櫻井専務(左後方)、深作CEO(右後方)の4氏。システムは、鋼材流通が運送会社に発注する際の流れとして、ファックスでのやり取りが主流となっていた。発注時の画面の形式が統一されてい

ないことも多く、「荷主さま側のフォーマットでファックスが送られてくるため、当社で一つ一つ依頼内容を整理する必要はある」(櫻井運輸の櫻井隆介専務取締役)。

荷主側からの配送時の要望は荷姿の指定や伝票の扱いなど多岐にわたり、こうした複雑な情報をシステム上で可視化することは運送会社側の業務効率化にも寄与する。リモートで操作できるのもメリットとして大きい(同)。「システム上に記録を残せるため、トレーサビリティ強化にもつながる」。

関西でもユーザー開拓

メタルジャパン大阪出展

藤澤鋼板と別府スリッター、櫻井運輸、ネバーマイルの4社は5月8-10日に大阪市のインテックス大阪で開

あった。まずこの部分のペーパーレスを実現できないかと考えたのが開発のきっかけという。トラックが先に到着しているけど、運送会社からのファックスの受信待ちで荷物を引き渡せないということもあったが、システムはリアルタイムで更新されるので、そのような無駄な待機時間も削減できる」と見込む。新たな機能として、基幹システムとの連動による発注情報入力自動化や、自社管理などの追加も計画している。

「より多くの会社が参加することで、さらに使いやすいシステムとなり、1社あたりの開発費用も抑えられる」(藤澤鋼板の藤澤丈社長)。現在は浦安鉄鋼団地や都内に拠点を置く複数の企業が関心を示しており、関西地区でも潜在的なニーズがあるとみている。今秋には千葉市の幕張メッセで開催されるメタルジャパンにも出展を予定する。

日刊産業新聞 2024年3月14日